



日立社友クラブ 茨城支部

茨城支部 便り
第 49 号
2014年10月20日
編集兼発行人
長島 重和

HITACHI HITACHI



「遊覧船からみた浄土ヶ浜」

撮影者：小林 康浩
撮影日：平成 26 年 8 月 30 日
カメラ：Nikon D70 シャッター速度：1/2,500
絞り：f8.0 焦点距離：18mm
場所：岩手県宮古市 浄土ヶ浜
撮影余話：このたび「旅行会」グループが主催するバス旅行「龍泉洞・浄土ヶ浜・三陸鉄道の旅」に参加した。東日本大震災から3年余、まだ震災の傷跡が大きく残る復興途上の各地を廻って改めて被災の大きさを見ました。浄土ヶ浜遊覧船では出発と同時に多くのウミネコが船に集まってきて、朝日に照らされた海岸線を見る景色は素晴らしく、ウミネコを含めた撮影に時の経つのを忘れる位でした。

リレー随筆 (49) 囲碁は老いて尚楽し 鈴木 博之



囲碁は年齢に関係なく楽しめると言われていますが、傘寿を超えると気力、棋力共に年々低下していくので情けない。今回投稿依頼を受けたのをチャンスに囲碁の歴史や教えをもう一度噛みしめ自分への激励と戒めとしたい。

囲碁の起源は確かなことは判らず、中国の皇帝が息子の教育の為に考えたと言う説、或いは碁盤を宇宙に見立て、占いや天文学の道具として始まった等色々言われていますが、春秋時代(紀元前700年頃)には既に庶民に楽しまれていた様であります。日本には7世紀頃に伝わっており、正倉院には当時の碁盤と碁石が収められています。

その様な古い歴史だけに奥が深く教えられることが多い。先ず囲碁を表現する言葉には色々あり、代表的なのが「手談」、これは一般に使われている「手段」とは異なります。つまり盤に石を置くだけで会話となり、一局打つだけで初対面の人とも仲良くなれると言う意味で囲碁の代表的別称となっています。その他「棋道」「烏鷺(うる)」「幽玄(ゆうげん)」「忘憂(ぼうゆう)」「爛柯(らんか)」等、それぞれに教えの物語があります。

囲碁はマナーを大切にしています。囲碁は礼に始まり礼に終わると言われており、打ち始めるときに「お願いします」、対局後は勝っても負けても「有り難うございます」と、一礼する習わしとなっており気持ちの良いものです。

更に古いだけに色々な諺があり、碁の心得としてだけではなく人生訓としても参考になります。

- 一例をあげると、
- ◎うわ手(上手な人)は苦しくならない様に考え、した手は苦しくなってから考える
- ◎うわ手は負けないように打ち、した手は勝ちたい勝ちたいと打つ
- ◎うわ手は投げ場(途中で負けを宣告)を知り、した手はとどめを刺されるまで打つ

日本で碁の強さを示す段位制度が出来たのは、四世本因坊道策(江戸時代前期)の時代で、中国の九品(品位には九つの段階が有る)に従ったものです。

囲碁の九品は各段に相応しい品格を示すものとして初段から順に、守拙、若愚、闘力、小巧、用智、通仙、具体、座照、入神(九段)、が用いられています。例えば八段の座照は、座ればたちまち盤を照らす実力者の品格を意味しています。正式の免状には現在も用いられている様です。

堅苦しいことを列記しましたが、囲碁は江戸時代から庶民に非常に親しまれ、囲碁に由来する慣用語が非常に多くあります。岡目八目、一目置く、手を打つ、先手を打つ、駄目押し、八百長、布石、定石、捨石、等々です。調べると色々面白い参考になることが多いのに驚きます。さらに私にとって「手談」の有難さを味わうのは年に一度八十六歳の兄と囲碁を打つことで、



対局を楽しむ筆者

何も話をしなくても楽しい雰囲気になることが出来ることです。これからは品格を少しでも高めるように努め、多くの人と囲碁を「手談」として楽しむことに心がけ人生を楽しく豊かに過ごしたいと考えている。

「能」に魅せられて 《舞って謡って50余年》

佐々木 正祥



能楽との出会い
それは二〇代前半のことであった。妹の結婚披露宴で、新郎仲田睦男(故人・当時多賀工場生産技術部)の上司と先輩が代わるがわるの祝言を謡って下さった。父親代わりの私はその謡に深く感動した。これを動機に日立会謡曲部観世会に入り能楽の稽古を始めた。当時日立会謡曲部観世会の講師だった鶴沢雅師についた。現在はその娘さんの鶴沢久師に、月に一回稽古して頂いている。



国立能楽堂にて舞う
仕舞「鳩」を舞う
筆者

能楽の歴史

能楽は奈良時代に中国から入ってきた散楽を始祖とする。当初は物真似滑稽の類であった。約六五〇年前の南北朝時代に観世親子が声名(しようみやう)・田楽・クセ舞その他の民俗芸能を取り入れ、幽玄をテーマとする今日の能楽を完成した。当初は神社・仏閣のお祭りの客寄せであった。名声が高まって足利將軍の目に留まった。以後豊臣秀吉・徳川幕府などの庇護を受け、武家の式楽として発展した。明治維新の際は一時的に衰退したが、現存する世界最古の仮面音楽劇として、日本では最初に国連の文化遺産に登録された。

能楽の効用

能楽は知力と体力の向上と維持に役立つ。謡曲一五徳(小堀遠州または細川幽斎作と伝えられる)は次の様に述べている。

・行かずして名所を知る
・旅に在って知音を得る
・習わずして歌道を識る
・詠めずして花月を望む
・友なくして閑居を慰む
・葉なくして鬱気を散ず
・思わずして座上に登る
・望まざる高位に交わる
・老いずして故事を知る
・恋せずして美人を懐く
・馴れずして武芸に近づく
・軍せずして戦場を知る
・祈らずして神徳を得る
・触れずして仏道を知る
・蔽らずして形美を嗜む

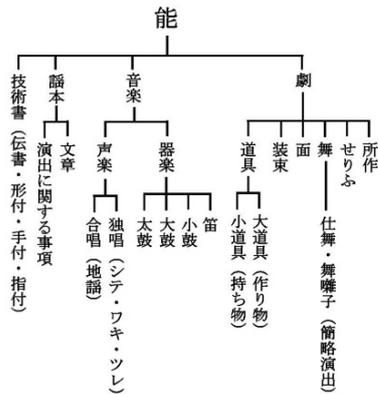
GE社の技術者との出会い

一九六七年前半米国カリフォルニア州サンノゼ市に在った、GE社原子力事業本部のプロジェクトエンジニアリング部で仕事をした。仕事が終わった後の宴会で、謡と仕舞を披露し喜ばれた。GE社員の子弟が通う小学校で、社会科の招待講師として日本の話をし、余興に謡いと仕舞を披露して大変喜ばれた。これがGE社の社内新聞に写真入りで紹介され、市内の他の学校へも招かれ講演した。日本文化に造詣の深い技術者と親しくなり、週末に誘われて訪問し、楽しい時間を過ごした。小生は帰国後に結婚した。その時GE社のクワゼルさんが、遙々来日して、小生の結婚式に参列し、祝辞を述べてく



Chopsticks Lesson No. 1
GE社社員との食事
右端が筆者

能楽の構成



能楽の稽古

通常我々が能楽を楽しむ稽古としては、まず声楽としての謡(うたい)を習う。最初は先生からの口移しで稽古する。大切なことは姿勢を良くし、臍下丹田に力を入れて発声する事である。もちろんテープなどを活用すると効率が良い。仕舞の次の段階は仕舞の稽古である。仕舞

れた。その数年後小生は、彼のお嬢さん(マリリンさん)の結婚式に渡米し、お祝いの仕舞を舞い、持参した仕舞扇を結婚のお祝品として差上げた。これらの経験から日本人が世界で活躍する条件の一つとして、日本文化を身につける重要性を実感した。



仕舞扇を持つマリリン
夫妻と筆者



筆者の結婚記念写真 最前列左端がクワゼルさん

の身のこなしは日本の古武術と同じである。大切なのは、構えと運び(歩き方)で、穏やかな動きは太極拳、活発な動きは少林寺拳法に似ている。仕舞は立った座禅とも言われている。ビデオを活用することも良い。

茨大能楽研究会

茨大工学部で平成四年から一五年間設計製図の講師を務めた。それが縁で特別講座「国際人としての教養のための能入門」を行い、学生を対象に稽古を始めたが、次第に学生から敬遠されて、現在は一般市民の方だけで稽古をしている。

場所：成沢交流センター
日時：毎週水曜日午後5時〜7時
会費：茶菓代として月千円を徴収
指導は小生が行っている。興味のある方は何時でも気軽にお願い下さい。稽古の成果を、毎年日立能楽会新春発表会(シビックセンター特設能舞台)、秋の日立地区文化祭能楽発表会(日立市民会館大ホール)にて発表している。

市民文化活動

現在、日立市文化協会理事、日立地区文化協会事務局長、日立能楽会会長などを努めている。これらは体力維持とボケ防止に役立っている。



能装束「吉野天人」を纏う筆者
左は故河原誠二さん(筆者の師 元茨支部会員)

佐々木 正祥氏 連絡先
〒316-0033 日立市中成沢町 2-14-22
電話 0294-37-0637
メール: msasaki@mx5.ttcn.ne.jp

同好会行事に参加して

「野鳥自然観察グループ」 伊藤 久雄



野鳥観察グループに参加してぼつぼつ10年になります。しかしまだ鳥の名前が覚えられず、双眼鏡の視野に野鳥の姿を入れるのに苦労している成績の悪いメンバーです。

参加のきっかけは同じ町内に住む二人の野鳥観察グループの先輩に誘われて参加しました。先輩たちは毎回車で迎えに来て、川の中洲、湖やいわゆる里山などの野鳥観察場所に連れて行ってくださいます。

野鳥観察の初心者に必要なものは「双眼鏡」だけです。当初オペラグラス程度のものしかなかったので、先輩に教えてもらって入手しました。現地では三脚に乗せた望遠鏡の視野に野鳥を入れて見せてもらいます。これが空を飛んでいる鳥からは予想もつかない色とりどりにきれいな色をしており、自然の不思議を感じます。

野鳥観察の先輩方は鳥を見に行くとはいわずに鳥に「会う」といいます、本当に鳥が好きな楽しい人たちです。観察会はだいたい午前中なので、帰りにグループのメンバーとそばやうどんをにぎやかに食べる。それは楽しい時間です。皆さんに迷惑をかけながら、月に一度の観察会を楽しみにしております。

「ホームページの会」 小宮山 豊



私が初めてホームページに取り掛かったのは平成13年、茨城支部同好会の「HPの会」に入会してからです。

「HTML文書作成の手引き」等色々と導入資料を作成して懇切丁寧に指導してくれたことを思い出します。それでもパソコンそのものを手掛けたばかりで思うようにホームページそのものを作成できませんでした。他人のホームページを覗いては自分も簡単な物でも早く作成してアップロードしたいと思い悩みました。

平成17年度に「HPの会」ではIBM社の「ホームページビルダー」を作成ソフトに選んで、皆が自分のホームページを作れるよう指導してくれました。

技法は習得したが、次に何をホームページに載せるかで長い時間が掛かりました。これと云って皆さんに公開できるような物を持っていないことに気づきました。幸い海外旅行の写真が残っていたのでこれを整理したこと、もう一つは趣味で始めた書道作品があるのでこれも整理して平成20年に公開しました。

講師の先生や会の皆さんのお力添えで何とかアップできました。これからはできるだけ早くリニューアルして新しいホームページに置き換えたいと思っております。

「専門講座」

笹島 弘



門前の小僧、習わぬ経を読む、を期待して入会したが、以来13講座を受講し、未だに輪講講師を辞退するのが現状です。

1年目にあの東日本大震災に遭遇し、東北地方のみならず茨城の日立も未曾有の被害を受けた。同好会拠点の東暁館別館も壊滅状態で活動停止を余儀なくされた。しかし日立OBのパワーは凄く、翌月に市内公共施設を借用して再開した。会瀬の青少年センターでのり弁を食べ、昼休みに穏やかな海岸を散策したのが今では懐かしい。

或る時、JWAYテレビのSEがモデムの交換に来訪し、手技良く作業を済ませて机上の数冊の分厚い教本を見て真顔で曰く、お歳の割には高度な難しい勉強しているのですねと、一瞬返答に困った。

何時も驚いていることだが世話人、講師の皆さんのパソコンの深い知識と取組の真摯さである。確かお歳は後期高齢者の筈。私は開講時の抱負と打上げの反省の弁の落差に嫌悪を抱く繰り返したが、皆様の厳しく暖かい激励と楽しい語らいが忘れられず継続したいと願っております。

年寄りには誰でもなれるが、年寄であることは非常に難しいことだ。(ゲーテ)。

支部からの お知らせ

理事会・茨城支部役員会報告

*第63-第4回 日立社友クラブ理事会報告

1. 開催日：平成26年9月4日(木)
2. 議事
 - ・新入会員の件：70名が入会され、9月4日時点の会員数は6,319名となった。
 - ・第64回日立社友クラブ総会の件：10月3日(金) ホテルニューオータニで実施。総合司会は久野支部長が担当された。長寿祝 白寿：4名 米寿：60名 喜寿：404名(過去最多)

*平成26年9月 茨城支部役員会報告

1. 開催日：平成26年9月5日(金)
2. 議事
 - ・新入会員の審議：

新入会員20名の審議が行われ、入会が承認された。9月5日現在で茨支部会員数は1,086名となった。

- ・役員交代の件：水戸・勝田地区担当役員の中島 宏氏が退任し、齋藤 満男氏が就任した。

年会費納入お忘れの方にお願ひ

会費(同好会費含む)の納入をお忘れの方には、個別にその内容を別紙にてご通知致しておりますので、ご確認の上納入下さるようお願い致します。

訃報 真に残念ですが、苦楽を共にした次の方がお亡くなりになりました。衷心よりご冥福をお祈り致します。

石崎 幸	平成26年 6月29日	享年89歳
金森 直和	平成26年 7月18日	享年74歳
竹内 守	平成26年 8月19日	享年78歳

同好会の行事ご案内（11月～1月）

1. 第62回研修会

〔歴史探訪：二本松少年隊の史跡と霞ヶ城の菊人形〕

戊辰戦争の激戦で戦死した二本松少年隊の史跡と霞ヶ城の菊人形を見学します。

その後、智恵子記念館と生家、帰路に大震災復旧後のアサヒビール福島工場を見学します。

- ・開催日：平成26年11月14日(金)
- ・集合：大甕駅前(常陽銀行大甕支店前) 7:00
日立南ドライブイン 7:10
- ・帰着：大甕駅前 18:30頃の予定
- ・会費：5,500円予定(バス、昼食代、他)
- ・募集人員：先着40名
- ・申込締切：10月30日
- ・申込先：石田和夫

Tel/Fax：0294-34-0209

E-mail：ishida.kazuo@nifty.com

2. 第59回歩こう会【額田の歴史街道に行く】

額田城址と周辺の歴史遺産を巡る計画です。秋日和の気候のもとに歴史を肌で感じて歩いてみましょう！

- ・開催日：平成26年11月20日(木)
- ・集合場所：額田地区交流センター駐車場 集合10:00
那珂市額田南郷31-2 029-295-6110
- ・コース：額田地区交流センター(10:15)→額田城址(二の丸)→阿弥陀寺→引接寺(昼食)→鈴木家住宅→古民家鈴木と山車庫→愛宕神社→鹿嶋八幡神社→毘盧遮那寺→額田地区交流センター(解散)
総距離約6km、平坦地

- ・持参品：弁当、飲物、雨具等
- ・参加会費：200円(非会員はプラス300円)

- ・申込締切：平成26年11月13日(木)

- ・申込先：歩こう会南地区世話人 垣貞玲吉

Tel/Fax：029-274-1727

E-mail：kakisada@ae.auone-net.jp

3. 定例行事予定一覧(開催日・場所・時間などは各グループより、別途茨ネット等により連絡致します。)

グループ名	連絡先	実施日(曜日)			場所	時間	備考
		11月	12月	1月			
野鳥自然観察グループ	藤原延弘 0294-34-4039 ntit.fjwr@nifty.com	17(月)			小山ダム	9:00～	参加費:¥300/回 原則雨天中止
			15(月)		久慈川河口	9:00～	
				19(月)	千波湖	9:00～	
囲碁の会	日立地区 助川一弥 0294-24-3768 kazy.sukegawa@net1.jway.ne.jp	12(水)	10(水) 大会	14(水)	同好会本部	10:00～ (大会 9:30～)	参加費:¥100/回 大会:¥1300
	26(水)	24(水)	28(水)				
	勝田地区 七海清 029-273-8450 fwny8718@mb.infoweb.ne.jp	20(木)	18(木)	15(木) 大会	大島コミュニティセンター	9:00～	参加費:¥200/回 大会:¥700
料理教室	澁口七郎 0294-43-5134 s-shibuguchi@net1.jway.ne.jp	10(月) 25(火)	8(月)	13(火) 26(月)	明治商会	10:00～	参加費:¥1700/回
卓球クラブ	綿引邦彦 0294-37-1491 perroygato4923@net1.jway.ne.jp	5、12 19(水)	3、10 17(水)	7、14 21(水)	会瀬体育館	9:00～ 12:00	参加費、会場費等 まとめ:¥2500/年
デジカメクラブ	高原邦明 0294-53-7101 k-takahara@rio.odn.ne.jp	10(月)	1(月)	5(月)	同好会本部	10:00～ 15:00	参加費:¥1000/回 昼食代含む
写真五七五	八巻秀雄 0294-34-4173 yamaki@green.ocn.ne.jp	7(金)	5(金)	9(金)	大久保交流センター	09:00～ 12:00	参加費:¥300/回 昼食別途
パソコングループ	HPの会 中村進 0294-52-5525 ssm2332@knh.biglobe.ne.jp	4(火)	2(火)	6(火)	同好会本部	10:00～ 15:00	参加費:¥800/回 昼食代含む
	基礎講座 山田和夫 0294-22-3950 k-yamada@bb.wakwak.com	11(火)	9(火)	13(火)	同好会本部	10:00～ 15:00	参加費:¥800/回 昼食代含む
	勝田地区 渡部喜久雄 029-282-7633 kikuo_wa@d1.dion.ne.jp	26(水)	23(火)	27(火)	ひたちなか市ワークプラザ	13:15～ 16:00	参加費:¥700/回
	シニアパソコン 山田和夫 0294-22-3950 k-yamada@bb.wakwak.com	17(月)	15(月)	19(月)	同好会本部	10:00～ 15:00	参加費:¥800/回 昼食代含む
	PP2013講座 安田出 0294-37-1959 yasuda@i.email.ne.jp	21(金)	19(金)	16(金)	同好会本部	10:00～ 15:00	参加費:¥800/回 昼食代含む
Excelマクロ&VBA講座		27(木)	25(木)	22(木)	同好会本部	10:00～ 15:00	参加費:¥800/回 昼食代含む

第10回 デジカメ写真展のご案内

デジカメクラブ、写真五七五グループ、野鳥・自然観察グループ合同で写真展を開催します。会員が撮影した傑作や楽しい写真がいっぱいです。ご家族、ご友人お誘いあわせの上、ご来場をお待ちしております。

- ・日時：11月20日(木)～24日(月) 9:00～17:00
(初日は12:00から、最終日は15:00まで)
- ・場所：多賀市民プラザ 1階ギャラリー

編集後記 会員投稿で佐々木正祥さんの能楽(仮面音楽劇)、リレー随筆で鈴木博之さんの囲碁(手談)、いずれも中国から伝わった。しかし今や日本の伝統文化を代表するものですが、その魅力と奥の深さを分かりやすく紹介頂きました。また同好会行事に参加された伊藤・小宮山・笹島ご三方の感想にある、人との関わりを通して知力・体力維持に努めたいものです。 長島 重和